



京都・祇園白川・吉井勇の歌碑の前

掲載の内容は、2018年11月に実施されたものです

【国文学科】  
現地で  
体感する

## 作者の愛の深さを感じる「文学散歩」

夏目漱石は生涯で4度、京都を訪れています。3年生を対象にした学外研修では、漱石が1度目に親友・正岡子規とともに泊まった「柊家」を通り、漱石の句碑へ。ここは4度目の宿泊地、御池通木屋町の旅館「北大嘉」があった場所です。祇園の茶屋「大友」の女将・磯田多佳と交遊し、ふたりのあいだに小さな行き違いがあったときに漱石が詠んだ「春の川を隔て、男女哉」という句が刻まれています。漱石の視点で鴨川を見つめながら多佳女を思う気持ちを想像し、「大友」跡も巡ってその距離感もつかみました。

このように文学や歌の舞台を実際に歩き、見る・聞く・食べるといった経験をすると、文字だけでは湧かない文学の世界を知ることができます。ゼミの合宿で訪問した三島由紀夫『潮騒』の舞台である三重県・神島では、私自身も心を大きく揺さぶられました。主人公の恋人同士が逢い引きをした八代神社の階段を踏みしめ、小説を読んだときよりもはるかに深い愛を感じたからです。奈良大学周辺には、古典に登場する山や川、神社などがたくさんあります。文学を学ぶには最高の環境で、感性を磨いてください。



漱石ゆかりの京都の地を学生たちと訪れた光石教授。学生からは「実際に句に詠まれた地に立つと、漱石の感情が伝わってくる」「ひとりでは見落としてしまいそうな物にも目を向けられるのがよい」との声が。気さくに会話をしながら先生オススメの古木屋巡りもし、研究に役立つ資料探しをする楽しさも体験した。

文学部 国文学科  
専門分野 / 近代文学  
光石 亜由美 教授、博士(学術)  
MITSUISHI Ayumi

### 国文学科のフィールド・アクティビティ

- 飛鳥万葉踏査
- 奈良公園文学散歩
- 大阪天満宮見学
- 歌舞伎、文楽の観劇
- 日本の食文化を学ぶ体験授業